

ぐんまで頑張る職業人の熱意をレポート!

柴崎龍吾の課外授業

Vol.8

うすい学園代表取締役の柴崎龍吾が街に飛び出して、元気に働く人にインタビュー。
子どもたちのために、職業の多様性や働くことの意味を毎号レポートしていきます!



うすい学園代表取締役 柴崎龍吾

大学在学中に劇団を主宰し、卒業後は放送作家として活動。1975年に個人塾「横川学習塾」を開校し、以降、うすい学園を展開。子育てや教育に関する著書多数、ラジオ番組出演中。

地域のために活動したい その思いひとつで福祉事業を展開

柴崎 今回の高崎市で平成11年から福祉事業を行っている認定NPO法人ハートフルの櫻井宏子代表を訪ねました。まず、事業内容を教えていただけますか。

櫻井 私たちは居宅介護支援や通所介護、訪問介護などの「介護保険・障がい福祉サービス」と、保険外サービスの「たすけあい」や配食サービス、サロン等の「地域活動」を事業の柱としています。

柴崎 ハートフルを立ち上げたきっかけは何でしょうか?

櫻井 在宅ヘルパーとして働いていたとき、高齢者や体が不自由な方々の日常の困りごとに日々、直面していました。例えば犬の散歩や庭木の手入れ、通院の付き添いなど、周囲からすれば小さなことでも、ご本人にとっては大きな問題がたくさんあります。

す。でも介護保険の範疇で働くヘルパーではできないことが多く悩んでいました。そんなとき、長く携わっていた方が入院し、娘さんより「最後まで一緒に看取りまでお願いしたい」と病院での付添いの交替を頼まれました。ヘルパーは病院での支援はできません。そこで「今はできないが、それが出来る事業所を必ず立ち上げます」と約束したんです。これが事業を始めるきっかけです。地域の方々が困っていることを支援すること、住み慣れた地域で安心して暮らせるように手助けしたいと集まった仲間たちとNPOを立ち上げました。

柴崎 福祉業界は今、さまざま企業が参入していますが、ハートフルでは困っている人々に寄り添う「地域活動事業」を軸として始まったんですね。ところで現在、業界

では人材不足が叫ばれていますが、ハートフルでは職場環境整備で面白い取り組みをなさっているそうですね。

櫻井 誰かを支える仕事は大変です。だからこそ働くスタッフが健康でハッピーであるべきだと考えています。正社員とパート従業員で労働内容や処遇に差異はありません。7時間労働、残業なし、定年なしです。また誕生日休暇やチャイルド休暇など多彩な休暇制度を整備して、スタッフが楽しく働けるように職場環境を整えています。おかげさまで、今は20代、80代のスタッフが働いています。

柴崎 国の労働政策を先取りしていますね。人材育成はどうでしょうか?

櫻井 この仕事には「気づく力」や「思考の柔軟性」「前向きな考え方」が大切です。だからスタッフがウキウキするような研修を数多く行い、自身が変わるためのきっかけづくりをしています。それは利用者の方々に最良のサービスを提供するためですが、同時にスタッフには人生の先を考えて欲しいからなんです。

柴崎 素晴らしいですね。最後に福祉事業のやりがいを教えてください。

櫻井 やっぱ「ありがとう」という言葉、喜んでもらえることに対する喜びでしょう。人と人とのつながりの中にこそ、嬉しさや楽しさはあるのだと思います。厳しい環境、大変な仕事だからこそ、それをやり実感できるのでしょうか。

柴崎 ハートフルを頼る利用者だけではなく、働くスタッフも含めた「地域の人々」が、明るく楽しく、生きる喜びを分かち合っている。櫻井代表の話す「地域のため」とは、うわべだけのお題目ではなく、血の通った理念なのだと感じました。今後、小規模多機能型居宅介護を計画するハートフルの活躍がますます楽しみです。それでは次回もお楽しみに!



▲認定NPO法人ハートフル代表・櫻井宏子さん:在宅ヘルパーとして7年半活動。平成11年にハートフルを設立し、配食サービス事業とたすけあい事業を開始。平成12年から居宅介護支援・訪問介護・障がい福祉・通所介護事業を行っている。
▲現在、重度の認知症の母親を介護しながら働く櫻井さん。怒(じょ)ゆるす、おも(おも)いは、櫻井さんのポリシーが行きついた言葉だという。



今月の職業人

認定NPO法人ハートフル代表・櫻井宏子さん